令和６年度第２回 地域公共交通会議 会議録

日 時:令和 6 年 12 月 18 日(月)14:00～16:00
場 所:南伊勢町役南勢庁舎3階会議室
出席者:15 名(定数 20 名) 出席者のうち委任状による代理出席 2 名

・広田町長
・住民代表(田畑委員〔会長〕、竹内委員、青山委員、南委員)
・学識経験者(名古屋大学大学院環境学研究科 加藤教授〔副会長〕)
・福祉有償運送事業者(南伊勢町社会福祉協議会上村南島支所長)
・交通空白地有償運送事業者(NPO 法人わがら濵口理事長)
・一般乗合旅客自動車運送事業者
(三重交通㈱バス事業部長 代理出席、大新東㈱南伊勢営業所立花所長)
・一般乗合旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転手が組織する団体
(伊勢志摩交通労働組合執行委員長)
・中部運輸局三重運輸支局(首席運輸企画専門官)
・伊勢警察署(交通規制係長)
・三重県(地域連携・交通部交通政策課長 代理出席)
・三重県伊勢建設事務所(副所長兼保全室長)

事務局:南伊勢町 環境生活課課長 里中、生活交通係 係長 長尾、環境衛生係 主任 片山

1 会長あいさつ
2 報 告
三重県地域間系統事業評価について 三重県地域連携部交通政策課 資料1
3 議 題
1) 報告 切原中津浜浦実証実験運行事業について 資料2
2) 協議(議決)
令和 6 年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価(案)について 資料3
「南伊勢町地域公共交通計画」に関する自己評価(案)について
3) 協議 吉津路線における道路運送法21条申請について 資料4
4 その他

（事務局：里中課長）

～ 挨 拶 ～ 町公共交通会議設置要綱第 4 条の 3 項に基づき、田畑会長に会議を統括いただく。

（田畑会長）

南伊勢町地域公共交通会議の、第 2 回会議を開催。 ～ 挨 拶 ～

20 名中 15 名出席で会議が成立。はじめに報告、三重県交通政策課、代理出席 松島主任さん。

（三重県交通政策課：藤田委員[代理出席 松島主任]）

南伊勢町内を運行する地域間幹線バスの令和 6 年度、令和 5 年 10 月から令和 6 年 9 月末までの結果で、磯部駅への乗り入れや、五ヶ所線の増便など実施される前の事業結果の報告。資料 1 の 5 路線の利用実績輸送量が15人を超えている場合に補助金を受けることができる。

5 路線のうち、五ヶ所線Bと宿浦線Bの2路線が 15 人を下回り、早急な対策が必要。一方で、数年輸送量が下回った五ヶ所線Aは 15 人以上を超えた。

五ヶ所線B、宿浦線Bともに重要な路線でありながら、このままでは補助金を受け取ることができず重要な問題となる。来週、近隣市町、国県、関係機関で集まり対策に向けて協議を開始。今後、経過等報告する。

（田畑会長）

次に切原中津浜浦実証運行の説明並びに報告を事務局から。

（事務局）

実証実験の結果報告と、住民さんのご意見をお伝えする。

資料 2-1、4～9 月の利用結果で、行先として乗降者数が多かったのはコメリ・ぎゅーとらバス停、その他、ある程度の町立病院へのご利用があった。1 日 5 往復の運行で、1 日利用者数平均は 5.5 人、1 便当り 1.1 人となり、ご利用はかなり少なかった。病院無料ループバスも重複し運行しているなど致し方ないところもあるが、この結果を受けて当実証運行は 9 月末で終了。

実証運行の終了前、中津浜浦と切原の方には集まっていただき、船越ワンバの方はお電話でご意見をいただいた。中津浜浦では、町営バスのバス停よりも奥のデマンド乗車位置まで小型車両で来て欲しいとの意見があり、町営バスと病院ループバスなど上手に利用されて、またバスダイヤも把握されており、町営バスと組み合わせ、あと一本バスが来てくれるとお買い物往復できるとのことだった。また、中津浜浦からの町営バスは五ヶ所方面への運行になっているが、この実証運行ではコメリぎゅーとら方面にも行けたのが嬉しかったとのこと。切原では、既に体が少しご不自由な方も多く、町営バスみたいなステップの高いものよりはデマンドバスみたいな小型車両が来てくれると嬉しいとのご意見。ワンバの方が今回一番ご利用いただいた。中津浜浦と同様に町営バスはコメリ・ぎゅーとら方面に向いてないので、町営バスを使えないが、「仕方がない」とも言われていた。

ご意見は今後の南勢地区路線再編に向けての参考とし、利用量等を元に本当に必要なダイヤの精査を行う事について了承いただいた。

（田畑会長）

これは、どうやって開催したか？アプローチは行政側からか？区長は参加したか？

（事務局：環境生活課長）

２ ヶ所 ２ 地区のコミュニティセンターで開催し、ワンバの方はお電話と訪問。住民さんのご意見いただきに町が開催。区長の参加もあった。告知は地区内及びデマンドバス車内告知と、運転手による声かけ。

（加藤委員：名古屋大学教授）

具体的に中津浜浦と切原の今後を展望しないといけない。町営バスもあり、小学生通学を除けば小さな車で何も問題ない。一方でデマンドがあり、予約すればいいが、やはり定時か、或いは予約なしで乗れるといいので実証運行をしたと言うこと。結果、5 便をフルで運行するのは有り得ない。その場合、車両を占有し他地区へ運行できない。しかし、確実に定時利用があるなら、そこを見つけ出すか、具体策を出さないと結果が残せない。現状この結果では無理で、このダイヤで実施したが、改善点は結構ある。9 時のバスで出かけ、13 時に帰るなど決まっているならそのダイヤが利用しやすいが、切原と中津浜浦が同じ時間帯だと、運行できない。その解決策を掴んでいるのか？なければ難しい。あとは現状のバスダイヤをどうするか、若しくは廃止し、代替え案などあるのであれば教えてほしい。

（事務局）

先生の仰る通りで、中津浜浦については、デマンド予約は朝一で南海方面から五ヶ所に到着したバスが、中津浜浦へ遅めに迎えに行くパターンが多く、また町営バスもあり、9 時ぐらいに便ができると 10 時台に町営バスの帰宅便があるので嬉しいとのご意見だった。中津浜浦の皆さんはバスダイヤも把握しており、今後の路線再編では町営バスと今回の検証結果を統合してダイヤ検討できると考えている。

（加藤委員：名古屋大学教授）

なので、小さい車の方が現バス停より奥まで行けて、コメリぎゅーとら方面行くにバスができれば、町営バスをやめて、このバスでもいいとなる。あと、毎日運行が必要なのかということ。

（事務局）

中津浜浦の沿線上には「ワンバ」という新興住宅地があり、現在そこの小学生通学をデマンドバスで担っていて、その運行についてもデマンドバスか、町営バスを小型化し統合していくのか、そういった議論になっていくと考えている。明言はできない。

切原はスクール的利用時との間に、高齢者の利用時間帯で小さい車両を運行してほしいとのことだが、かなり利用者数が少ないので、まずバスが必要かというところからの議論になると感じている。

（加藤委員：名古屋大学教授）

了解。

（田畑会長）

議題 1 について、よろしいか。なければ、次「令和 6 年度の事業評価」の審議を事務局から。

（事務局）―説明―

補足）デマンドバス運行は 4 台で行う予定だったが、令和 6 年 2 月から 9 月に内 1 台を使いセミデマンドの実証運行を行うこととなり、通常運行が 3 台となるので予約ができない等の苦情があった。その為、7 月の終わりから 9 月まではもう 1 台増車することになった。

町営バスの利用者数は、三重交通で運賃収入より算出している。今年、令和 6 年 4 月から 9 月半期分のみだが、町営バス全便の乗車人数の実数をカウントし調査した。結果としては半期分で 3 万 9788 名のご利用があり、運賃収入からの算出数と乖離した。しかし、地域間幹線系統など運賃収入算出が基準となっていて、致し方ない。吉津線は、1853 人のご利用があった。デマンドバス利用者数は実人数で 1 万 8622 人、5 台分を含めている。他に、地域間幹線路線についての対策が急務。

デマンドバスの町外の方の利用者数が若干伸びており、観光協会から予約もあった。

南島地区は 5 年 10 月から最終帰宅便が 14 分短縮され、南島道方での保護者の送迎車両が激減し、みんなで最終目的地バス停まで帰宅できるようになったと感じている。

（田畑会長）

観光協会、インバウンドはこの辺りはどうか？観光入込客的なデータを取っているか？増減は？

（観光協会：青山委員）

お客様もみえないのでインバウンド効果は全くないと思う。データは取っている。

横並びと言うか、季節とかにもより、そんなに多分毎年変わらない。

（田畑会長）

私も町内や志摩市に行くが、この辺りでは外国の方をみかけない。観光政策も頑張って、交流人口を増やしてもらえるといい。事務局、行政同士の意見交換とかデータ交換してないか。

（事務局：里中課長）

デマンドバス乗降場所について、全部で 212 ヵ所あり、観光スポットは田曽白浜、見江島展望台、中の磯展望台などあり、累積利用数はハートの入り江の見江島展望台が一番多く 60、70 名、その積み上げが 100 名ほど。その中で外国の方は含まれてなかった。

（広田副町長）

インバウンドの話。今、宿泊業者でなく一次作業事業者の中で、体験型のインバウンド向け旅行計画を観光業者に売り込み、当町ならではのプランでのインバウンド呼び込みを考えているグループがある。インバウンド向けとしながら、国内需要も見越し、地域振興兼ねて観光をやっていきたいとのことで、頼もしいなと思っている。当町は観光資源が点在しているので、うまく繋いだルートプランがあると良く、これからは観光と交通政策を組み合わせ考えていくといいと思っている。

（田畑会長）

はい、また当町の高齢者率が 50%、60%。私も 80 歳以上の方を会員として、何とかお年寄りを元気にしたいと試みたが、半数の方が亡くなった。月 1 回でも集まる機会がなくなったら、運動しない、刺激がない、外出しないと早く弱る。竹内委員さん、相賀浦はいかがか？

（住民代表：竹内し委員）

地区以外の人はあまり見かけない。釣り客とかが多いが、車で来る。過疎の村で、昔なら遠洋漁船も華やかだったが、学校を卒業すると外へ出ていくので、後継者もなく、人もいなくなっていくのを感じる。

本当に弱るのは早い。だから外に出る理由や機会、いろいろ交流なども増やしてほしい。

（田畑会長）

交流なども増やして、外にでかけていかないといけない。自分で実際に行動・活動をやってみえる浜口委員、お年寄り向けの事業や交通手段、利用者も増え、うまくいっているか？デマンドバス事業に対してアドバイスはないか？

（NPO 法人わがら：濵口委員）

移送に関しての急激な利用増は落ち着いたが、まだ増えている。同時に、減ることもある。

アドバイスではないが、「わがら」では、五ヶ所方面でのお買い物等の送迎はお断りしているので、買い物は引き続きデマンドを利用してみえる。町立病院について何人かは当方を利用するが、引き続きデマンドバス、町営バスを利用してみえる方があり、「行き」はいいが、診察が終わってから「帰る時」に、良いタイミングの予約が取れないとのことで、町立病院の周辺に時間つぶしできるようなところがあれば、デマンドは利用しやすいと言っておられた。

（田畑会長）

いろんな人間の視点から物事を考えていかないと。日常生活の中での気づき、発言いただきたい。

上村委員、結果が少し低調、何かいいアイデアはないか？

（社協：上村委員）

私は障がいや高齢の方との関わりなので、予約制が難しいのかなと思う。

以前、阿曽浦で予約なしのバスが来るといいと言ってみえたので「吉津地区では巡回バスがある」と言うと、阿曽浦や鵜倉にもあるといいと言われてた。なので、自分の地域以外他の地域でどんなことをしているか、周知できていないと言うこうとがわかった。

（田畑会長）

主なご利用者は高齢者が多く、でやはり予約が面倒。なるべく単純にわかりやすく利用できるといい。

（住民代表：南委員）

子ども達はデマンドバスよりも巡回バス（町営バス小型車両の路線）をよく利用し、とても有難く思っている。子ども達も予約が難しいので、定時の町営バスワゴン車の方が、使い勝手がいい。

（田畑会長）

本当に当町は地形が複雑で、集落が分散しているのでとても効率が悪く、交通政策はしにくいと思が、課題や問題点など、立花所長いかがか？

（大新東㈱南伊勢営業所：立花委員）

デマンドバスが周知できているのか、疑問に思ったが、知ってるけども、自分の車を使っているということ。もう少し周知して、気軽に伝えていただけたらと思う。

（田畑会長）

周知については、1 回したからいいというものではなく、年代に合わせ、いろいろアプローチをしないといけない。加藤先生、この辺りで皆さんのご意見をまとめて、相対的にアドバイスいただけると有難い。

（名古屋大学：加藤委員）

一言で言うと僕のいう事を聞いて欲しい。他の現場の会議で聞いた話。3 人の女性がみえて、2名がお買い物後、1 名の誕生会に行く。3 人は日常的に各種バスを利用し、3 人の年齢の合計が 290 歳。100 歳の誕生日だったことに私は驚いた。これがここの目標。この町でこんなことがあるか？多分思いつかない。この 3 人の女性は気兼ねなく動くことができるから、誕生会の発想も出るということだと思う。
ここにはデマンドバスがあり町内いろんなとこに安価で行けるはずなのに、なぜできないのかをもっと考えて欲しいと思っている。そこは、高齢者事業の開催はバスダイヤに合わせいて、その後「もう少しこの時間帯に運行してもらえないか」など要望が出てくる。相当、頭と体を使っていて、皆さんどんどん元気になっている。これは岐阜県でも一番、高齢化率の高い自治体で、10 年前はそのうち公共交通は全部なくなると言われていたが、今は大分変わった。

秘訣 1 つは便利にし過ぎないこと。例えばデマンドバスだとほとんどタクシーみたいで、頭も体も使わない。なのでバスや鉄道に乗り換えていただいている。それと、行先を作ると言うことで、行きたいところがないと、やはり出かける気にならない。そういう出かける行き先をできればバスが運行しているとこで、時間とかも見ながら作り、加えて、バスで来ると何か得点をつける、そういうことをやる必要がある。
行先を作り、出かけられる方は頭と体を使って外出して、みんなで誘って、人と何か一緒にして楽しみ、買い物不便を解消して嬉しいとか成功体験を増やし、広める。場づくりとこういった連携した運動が必要。

その他、送迎が如何に負担であるかということ。送迎で公共交通が便利に使えようになると、皆さんカミングアウトして、実は送迎するのは嫌だったと言い出したりする。お年寄りの方や、子供さんが動きやすくするために便利にするが、むしろ送迎している人の方が喜んでみえる。子供さんの塾については、今全国的にすごく話題になっている。朝もそうだが、今は夕方とか夜がホットだと言われている。塾、部活もどういうふうに公共交通、特にタクシーやデマンドを担保したらいいかということ。

～ 資料作成についての指摘 ～ 中部様式、計画の基本方針、吉津線・大方竈線の結果等を書く

観光・インバウンドについて、伊勢志摩（三重県中南部）の景観や、おいしいものは絶対に一流だと思うのに、なぜインバウンドがいないのかと感じている。他地区は外国の方が勝手に調べて、公共交通利用して来る。そこは近鉄や三重交通がきちんと介入して欲しい、何かをアピールできてない。

もしかすると外国人にとっては、響かないのかもしれないが、その場合に南伊勢が何をやったらいいかっていうのは、やはりこれはこれで議論が必要。今あるものを活かしてやらないといけないが、失敗の典型は、自分たちが「これがいい！」と思ってやること。ではなく、全く知らない人を連れてきて、何がいいかって聞いてやった方がいいと思う。観光は、外国人の他、若い方は公共交通のダイヤをネットとかで調べて来る方が増えている。検索した時に結果が出てくるようにする必要があり、考えないといけない。

鳥羽からきたが、あえて志摩磯部駅前へ行ってから来た。検索で鳥羽や鵜方方面から南伊勢に来ることができると結果がでる。出ないと行かないので志摩方面の観光客がこちらに来ない。今日は志摩高校の子がバスセンターや迫間で 4、5 人乗ってきた。学生さんは利用するが、お年寄りや観光客はいない。だからこの辺はポテンシャルがあるのに、利用が少ない。磯部駅にバスを乗り入れたが、磯部駅の駅の中にも何も案内はなく、ありえない。私なら「南伊勢行こう！」とかののぼりを立てたり、地域公共交通会議で決議して志摩市に申し入れ、磯部の駅にもっと南伊勢を宣伝するとかするし、できることだと思う。

（広田副町長）

このデマンドバスが始まったときに、お友達に会いに行くとか、ちょっとお出かけしようと言うのがあったのに、通院とか買い物とか、具体的な目的を達成するためのものになってきた。それと「価値って、中にいるとわからないよ」っていうのは本当に思うところ。外国の方にいっぱい褒めていただいて、みんな気持ちが上がったっていうことも経験したこともあった。もちろん便利だから使うが、何のための移動か、どこかに行きたい気持ちになってもらう、そこを擽っていくということがとても大事だとよくわかった。

（三重運輸支局：小島首席専門官）

資料 3-3 の中部様式、これが一番網羅的に、写真だとか表だとかも入った形で、皆様には中心にご覧いただきたい。詳細は、資料 3-1 や 3-4 をご覧いただければと思う。

この中部様式にはぜひ 1 頁目のプランに、まず基本方針に書かれている、高校生・高齢者・観光集客、こういったところを冒頭に記載いただいた上で、町営バス・デマンドバス等々、生活交通網の構築を目指し、計画目標は1日当たり 60 人だとか、路線図、交通体系を入れていただきたい。そこからDoの頁、チェックの頁と繋がっていくような形で、作成いただけると良い。

あとは中身の話で、磯部駅にバスが乗り入れたことは、乗換アプリ等で検索できることなどの取り組みは大事かなと思う。一方でデマンドバスについて、観光スポットへの乗降場所設置からこれまで100名の利用があったとのことで、予約利用いただいた方が現実にみえて、観光の足、或いはなるポテンシャルがあると思うので、ぜひ今後も町外からの来訪者、観光も視点の 1 つとして持って取り組んでいただきたいと、今日お話を聞いていて感じた次第。

（田畑会長）

いろいろなご意見をいただき自己評価については、ご指摘いただいたことも含め若干、手直しをさせていただくが、基本的には皆さん承認いただけるか？

（委員）

～ はい ～

（田畑会長）

では次の協議事項、吉津線を事務局から。

（事務局）

資料 4、現在神前タクシーが運行している町営バス吉津線をあと半期、9 月まで運行したいと考えてお

り、ご了承くださいというところのお願い。先からのお話のように、この吉津線では伊勢地の方が河内へ桜を見に行くとか、週に月水金３日の運行でも、「またね」と言って、他地区の皆さんとお喋り、お別れしながら、乗車されている傾向も見られる。おでかけによる健康増進にも役立っているのかなと感じている。７年４から９月までの、この期間が期限３年の最終時期になり、そこまでの運行の了承をいただきたい。

（田畑会長）

現在 13 名／日程度の利用者で、令和７年度の９月までの運行計画。

（名古屋大学：加藤委員）

令和７年９月で３年となり、その後４条にしていくのかどうか、どう考えているか？それ以降もやっていくことを前提に、半年延長するということなのか？そこは決めているか？

（事務局）

予算査定前で現状、詳しくご説明できないところもあった。吉津線は好評路線であり運行は続けていきたいというイメージ。10 月以降は、ぜひ乗合許可を取っていただいて、運行していただけたら。

（名古屋大学：加藤委員）

多分、今南伊勢に、特に南島の辺りで必要なの運行なのだと思えるので、そこは問題なく、評価にも書いてもらえばいいと思う。7 年 10 月からここは「乗合」になるのが本来だと思うが、事業者さん自体がそこの体制が整えられるか。

こんなことを言うのは運輸局の手前何だが、79 条があるということ。例えば飛騨市の場合、タクシー会社が利用も多いいわゆる乗合形式の巡回バスをやっているが、「4 条はできなり、乗合はやらない」「79 条がいい」と言うので、飛騨市が自家用有償をやって、その巡回バスの運行をタクシー会社が白でやっている。運行管理自体はタクシー会社なのでできるが、「乗合」は嫌とのこと。南伊勢町でもあり得ると思う。

以前だと運輸局的には、「いや何とか 4 条運行で」と言っていたが、今はもうそんなこと言えない。以前は「必ず 4 条取得して欲しい」と言ってたが、今は本省の発想がかわって、「なにかむしろ 79 条の方が補助をたくさんもらえる」とかとんでもないことを言っている。でも、補助を貰えるとかの話ではなく、運行会社の体制として、無理をさせなくて良い。タクシー会社なのでそこだけ手を抜くことはない。

（広田副町長）

であれば、今は 10 月以降を目指して 4 条許可を取っていただく話しで進んでいるが、79 条もありなら随分と見通しが開けるので、やっていきたいと思う。

（名古屋大学：加藤委員）

はい。これは事業者協力型。タクシー事業者なら 2 種の方が運転されるが、79 条だと 1 種もあり得るので運転手の幅が広がるというのが利点の 1 つ。あと運行管理的なことは契約の中で、普通にタクシーでやってるのと同じように運行管理してくださいとする。でやれば、4 条乗合ではないがそれに近いような運行になり、利用者的にも 1 日 10 数人であるなら、全然問題ないのではないかと思う。

最終的には委員に承認いただくが、これが現実的ではないかと思う。あまりタクシー会社に無理をお願

いするのも申し訳ないと言うか、それよりも自主的に運行をきちんと確保すると言うことをやっていただきたい。あとは運転士確保について 1 種の方も視野に入れた方がいい。支局の意見をいただきたい。

（三重運輸支局：小島首席専門官）

国土交通省だけではなくて政府全体で地域交通に対しての課題意識を大きく持っている。

今年度、6 年 7 月に交通空白解消本部という組織が国交省でも立ち上がり、これまでの 4 条だけでは、日本全国必要な需要に対して供給が追いつかない。プロドライバーの人数も減ってきている。

労働基準、残業規制の改正等もあり、現プロドライバーにあまり無理も言えない状況。とはいえ、交通需要をカバーしていく上で、自家用ナンバーを使った有償運送の制度が改善緩和されている。

4 条だとフルスペックでの乗合事業と同じ審査基準で許可を受けていただくので、体制や、万が一、許可が取れなかった場合のことについて、79 条など、視野に入れられたらと思う。

こちらも事前準備をしておくので、また担当から相談いただければと思う。

（田畑会長）

あと、7 年度に関わる予算は大丈夫か。

（広田副町長）

交通政策担当の環境生活課の 1 回目の予算査定が明日なのでまだ何とも言えない。地域の皆さんのこの交通空白をなくすというよりは、とにかく何とかこの交通でみんな元気になってもらうっていう姿勢は町長から課長担当までみんな 1 つ。なけなしの予算をどう使っていくかその知恵も一緒に絞っていきたい。

（田畑会長）

非常に前向きなお返事。7 年度に、吉津線を継続運行することについて、了承いただけますか。

（委員）

～ はい ～

（田畑会長）

はい、次に最後の議題その他の項目で、今回の会議で、これだけは発言しておきたいことはないか？

（住民代表：南委員）

議題とは関係ないが保護者さんからの声。1 つ目は、中学生が降りる古和向きの河内バス停で、この間は木を切っていただいて、見やすくはなったと言っていた。でも、夕方 5 時を過ぎると暗く、道路に直面したバス停で、伊勢方面から下ってくる車のスピードが速く、対面に渡るのが怖いとか、危ないと言われる保護者さんがいて、電気などで明るくなるといいなと言われていた。

もう 1 つは去年うちの子も含め中学生が 5、6 人奈屋へ遊びに行って、5 時 20 分に奈屋のバス待合のベンチで座ってたが、「バスが行ってしまった迎えに来て」と電話があった。ある保護者が役場に言って三重交通に確認し「徐行はしていた」と言うことだったが、「でもすいませんでした」とのお答えをもらった。子供たちもベンチに座ってて、携帯をいじってたかもしれないが、時間になったらバス停付近まで出ると

か、そういうことの声かけを子供たちにどうしていったらいいかなってお話しを役場も言ってた。

あとは、小中学校スクールバスで三重交通の運転士に、乗るときに「おはよう」とか、「ドア閉まりますよ」とか「出発しますよ」って声をかけてもらっている。ワゴン（町営バス西巡回）もよく利用し、「ここへ行きたかったら、ここで降りた方がいいよ」とかって言っていただく運転士もいて、有難く、安心して乗せれると保護者はみんなそう言って感謝している。

（田畑会長）

２点ほど改善のお願い。まず、バス停の件は環境生活課、把握しているか？

（事務局）

把握している。河内バス停の待合所は建物の底も少し気になっていて、明日予算査定があり詳しい断言はできないが、是非とも頑張りたいと考えている予算案件の中の1つ。照明は防災安全課と現状を見に行き、対策を考えたいと思っている。伊勢建設事務所さまにご意見を頂戴したい。

（伊勢建設事務所：河邉委員）

国道260号線やサニーロードは山岳地帯も入っていて木々の枝葉が結構出ていて、我々も日々対処している。私はこの４月から着任し少しやり方を工夫し、今まで出てきたところを対象にやっていたが、ある区間重点的に奥まで追い込むということで、管内で順番にまわして対応している。その第一弾として、東宮河内間で草刈りをお願いした。これも予算のこともあり、如何せん限定的で申し訳ない。

（広田副町長）

東宮河内間、ほんとに道路が広くなったと感じ、本当に伊勢建設事務所にやっていただいて、交通安全にみんなでより気をつけたいなと思っている。この場を借りて改めて感謝申し上げる。南委員の三重交通に対する感謝のお話もそうだが、ご意見いただいたことが有難い。

（三重交通：増田委員[代理出席 小瀬古部長]）

奈屋のバス停の件、大変申し訳なく思っている。停まるのは当然のことなので、担当営業所の運行管理者の者に連絡し周知して、ドライバーにも徹底周知する。

ただ、「暗い」ということもあり、そうやってご協力をいただければ、ミスもなくなろうと思う。有難いお話をいただいた。ワゴン車のドライバーも、そうやって言っていただくと励みになる。今日、労働組合委員長も来ており、こちらのお話しについてもぜひ、共有させていただき伊勢と志摩の営業所で、再度確認をしていきたい。

河内バス停付近の木々についても、バス運行もしやすくなり、有難く思っている。

（田畑会長）

今日は会議に出席した甲斐があった。時間が押しているのが気になって仕方ない。

その他連絡事項を、事務局どうぞ。

（事務局：環境生活課長）

第 3 回会議を年明けの 2 月ぐらいに予定。公共交通の計画についての計画年度の延長について、承認させていただきたいと考えている。令和 7 年 3 月 31 日、任期が 2 年となっているが、今日は大変貴重な意見をいただき、何卒引き続き再任の方向で、お願いしたい。

それと、加藤先生とWebマガジンに掲載いただきました。加藤先生に一言いただきたい。

（名古屋大学：加藤委員）

国土交通省のWebの広報誌。今公共交通が非常に大事だということで、その特集の一連のものをやるとなり、どこかの現場をやりたいと言うことで、これは私が売り込んだとかではなくて、国交省の地域交通課の方が、広報課に推薦して南伊勢町になった。私もびっくりした。

なので、とてもいい機会を得たて、その取材の時に、本省、編集、取材関係者の方がこられて、みんな「南伊勢町は本当にいいところ」「もう 1 回行きたいけど遠いけど来たい」と何回も仰って、特に景色が最高だからとカメラマンの方がたくさん写真を撮っていた。本当に財産だと思うので、自信持っていただきたい。

南伊勢町がすごくいい機会を得たというのをお伝えしたかった。ホームページで見れるので是非。

（田畑会長）

プロフィールをしっかりと紹介してもらって、話題になればねそれはいいこと。

しっかりと皆さんにいい意見をちょうだいし、議論して、ご意見は行政にきちんと届く。

これからもこういう調子で、ぜひこの会議を育てていただきたい。（感謝）

（閉会）